

福島県南会津地域

□「木の町」蘇生の実現に向けた取組

“森林認証の取得促進や地域材の有効活用による南会津の製品ブランド化”

□現状と課題

本地域は、1950年代には優良広葉樹材の産地、木材・木工の町として栄えた。しかし現在では、地域全体の素材供給量は1950年代の10分の1にまで著しく減少している。

民国連携や生産性向上による素材供給拡大という川上側の課題とともに、地域外の大型製材工場や大手ハウスメーカー等に地域の資源が流れ、ビジネス機会と資金が地域外に流出しているという川下側の課題もある。



南会津町の森林資源

□アプローチ

森林認証林の拡大や地域材の有効活用による地域材の製品ブランド化を推進することで、地域内での資源・人材・資金の循環の拡大により、「木の町」再生を目指している。

その中で、地域の広葉樹の有効活用として、継承してきた木材加工技術を生かした新たな商品開発や、家具・玩具、クロモジアロマオイル等の製品化に取り組む。

また、針葉樹については、地域材を一定以上使用した一般木造住宅の建築への補助金交付制度（最大200万円）、及び地域内の木材流通促進支援制度を創設した。

引き続き、素材生産量の増加に向けた事業地の確保に向けた検討も続けていく。



分科会において幅広い分野の地元関係者の意見を集約

□取組の効果・成果

森林認証を取得した森林の面積は平成29年度に477haだったが、平成30年度に9,288haとなった。

地域材を一定量以上使用した一般木造住宅建築は、平成30年度に新築7棟、増改築5棟で、令和元年度には新築11棟、増改築4棟となった。また、地域内での木材流通促進支援の対象として、5,300m³が取扱われた。

さらに、地域の広葉樹材の有効活用を図るため、先進地の事例調査やその結果をもとにした勉強会を行うとともに、クロモジアロマオイルや玩具を始め、商品開発や販路拡大に向けた取組を進めている。



地域材を利用した新築住宅
（床材は地域のクリ材）

□成功要因

本事業の実施を契機に、成長産業化推進会議を設け、川上側と川下側の事業者が意見交換できる場を設定し、連携強化に取り組んでいる。特に以前から危機意識をもって地域の林業について話し合いを行ってきた地域の林産業関係者でつくるNPOみなみあいづ森林ネットワークが中心的な役割を果たしている。

□他地域でも応用できる考え方

近隣に大規模工場等がない地域における森林資源を活用した林業・地域振興のため、地域材の付加価値向上の取組として、「製品化」という視点を重視し、プロダクトデザイナーや建築士も参加して取組を進めている。